

# すてきに人生



今年4月に『つらないパパと石川二やえもん』を発売した児童文学作家の大庭桂さん。「現代社会では、言葉で人を中傷することが多いので、言葉は大事に使ってほしい。また、特に若い人の自殺も多く、何とか努力して生きてほしい。」今回の作品にはそのような思いが込められています。

実は、お子さんがマンガやゲームに夢中になっていたので、母が書いたものなら読んでくれるかなと思い、児童文学を書くようになったとのこと。親としての温かさが感じられます。

熊本生まれの大庭さんは、町ではいっぱい楽しいこともあるのに、ここでも何もなく、静か過ぎて、特に冬は雪に閉ざされて何もできないというこの

## 児童文学で心の大切さを伝えたい！

大庭 桂さん 平泉寺町平泉寺



土地柄に最初は不安もあったそうですが、しかし、「逆に自分を見つめ直す機会にもなり、人間として本当に大切なものを発見することができ、今ではカントリーライフを楽しんでいます。」とのこと。

今後の抱負を聞くと、「今は月刊誌の仕事に優先していますが、書けると確信ができたなら、今回の続編のようなものをぜひ書いてみたい。」と、親切丁寧に話してくださいました。

# 出会いふれあい

## 仲間 GROUP



熱のこもった練習風景

来る8月23日(土)に越前町で開催される「O・TA・I・KO 響2008」(響宴)へのゲスト出演が決まった勝山左義長ばやし保存会。

O・TA・I・KO 響は、今回で19回を数え、毎年2万人以上が訪れる全国屈指の太鼓のイベント。今回、海外でも公演しているグループに交じっての堂々の出演です。会長の木村照雄さんは、「出演できることは大変光栄です。左義長ばやしをPRするには一番いい機会なので、全力でがんばります。」



石川県羽咋市で開催された「第19回石川の太鼓」での出演の様子

## ただいま、猛特訓中！

勝山左義長ばやし保存会

と張り切っています。

現在の会員数は35人。その半数近くが小中高生も含む30歳代以下。県内外からの出演依頼も多く、先月も石川の太鼓に出演し、大変好評を得ています。

このように忙しい中でのO・TA・I・KO 響への出演依頼。「訪れる皆さんに楽しんでいただけるよう練習に励んでいます。ぜひ、市民の皆さんも見に来てください。」と、伊藤公子副会長は抱負を述べています。

今月からは、左義長ばやし講習会を月2回開催し、輪を広げようとしています。木村会長は、「風の盆と同じくらいの人出がある左義長まつりが目標」と、最後に力強く語ってくれました。

## 縄文人になって運動会

6月19日、三室小学校で、縄文時代をイメージした衣装を着て「原始運動会」が行われました。縄文遺跡である三室遺跡が近くにあることから、平成2年に始まった三室小学校独自の運動会で、今年で19回目。5月中旬から原案作成や企画を進めてきて、準備や運営も全て児童が中心となって行っています。

当日は、国王に扮した川端康平さんが始まりの宣言をした後、児童が考えた7つの競技を行いました。土器をバトン代わりにした段ボール渡りリレーや、木の実拾いや狩り(的当て)を行う障害物リレー、縄文風の替え歌とダンスのコンテストなど、児童38人がはだしになって体育館を駆け回りました。また、保護者が参加する競技では、あちこちで笑い声が起こり、笑顔で楽しんでいました。



土器をバトンにジャンプ！

## HOT 話題

### 巻き花寿司に挑戦

6月26日、地産地消や農村文化の伝承を目的として活動する、勝山市ふるさと活性化協議会(代表:坂井芳子さん)が、ふるさと塾(伝承料理講習会)を福祉健康センター「すこやか」で行いました。まず寿司と巻き寿司の作り方を学ぼうと参加した約20人は、ますのさばき方から挑戦し、巻き寿司では巻き方のコツなどを指導してもらいました。



きれいに巻けた寿司を飾り付ける

思い思いの具材を巻いてオリジナルの巻き寿司を作る皆さんは、笑いながらも目は真剣。永井奈津実さん(村岡町浄土寺)は、「巻き寿司は普段作る機会がないので、興味があって参加しました。まず寿司は、ご飯がはみ出さないように笹に巻くのが苦労しました。」と話してくれました。できあがった寿司は、お皿にきれいに飾り付けして皆さんで試食し、お互いの交流を図りました。



スプーンですりすり。くすぐったいよー

### スプーンでスキンシップ

6月29日、教育会館で、親子スキンタッチ教室が行われました。これは、昭和58年から毎年行われている幼児教育研究大会の一環として企画されたもので、スキンタッチとは、スプーンや歯ブラシなどで、子どもの皮膚をなでたりこすったりする軽い刺激の健康法です。

親子40組、約100人が参加し、日本鍼灸師会北陸ブロック青年部部長の上野誠一郎さんなど、講師8人に教えてもらいながら、自分の子どものお腹や背中、手足などをスプーンを使って軽くこすり、スキンシップを図りました。

奥志子さん(村岡町郡)は子どもの琉登くんと参加し、「子どもも始めはイヤイヤでしたが、気持ちいいのか、すぐにだまってやらせていました。」と、親子ともに満足そうでした。